医学教育誌編集委員会が目指す研究論文のあり方

日本医学教育学会
編集委員
福島　統

2006年10月15日第2回医学教育研究技法ワークショップ

第13期　日本医学教育学会編集委員会

委員長　:鈴木淳一
副委員長:畑尾正彦、齋藤宣彦
委員　　:相澤好治、福島　統、森田孝夫
松岡　健（32巻5号から）、庄司進一（33巻2号から）、高木　康、吉岡俊正（33巻5号から）
顧問　　:牛場大蔵、堀　原一、尾島昭次

- 第13期以前は、運営委員は編集委員を兼ねていた。→運営委員会と編集委員会の分離

31巻2号（2000年4月発行）

編集後記から（鈴木淳一編集委員長）

「筆者は図らずも編集委員長に返り咲くことになった。尾島昭次新学会長のたってのご希望に沿ったのであるが、2人の副委員長、そして幸いにも、3人の新鋭編集委員の皆様にご協力いただくことになった。・・・(中略）・・・新組織による編集委員と協力して新しい編集を実行していきたい。レフェリーは、今後、学会会員のすべての方々にお願いすることになった。・・・・・」

特集

1. モデル・コア・カリキュラムと共用試験（33巻2号、2002年4月）
2. 大学外卒前医学教育：地域での医学教育 Community-Based Medical Education（34巻3号、2003年6月）

34巻4号（2003年8月）

- 編集後記から（鈴木淳一編集委員長）
  私どもが編集を担当して早3年半がたった。・・われわれの編集委員会のスタートには、2つの決断があった。今なら書いてもよいと思うが、篠原出版の困難があった。・・・編集委員は学会発足以来ずっと運営委員が兼任していたのを止め、編集担当にふさわしい方々を選任した。・・・熱心な討論、厳しい査読で投稿会員には苦情を貰うこともあったが、多くの熱心な査読者には御礼の申し上げようもない。

第14期　日本医学教育学会 編集・出版・HP委員会

委員長　：庄司進一
副委員長：堀内三郎
委員　　：相澤好治、福島　統、森田孝夫、松岡　健、高木　康、吉岡俊正、椎橋実智男（35巻2号から）
顧問　　：堀　原一、尾島昭次、齋藤宣彦

第14期の編集

- 34巻から、学会抄録集は補冊となり、年7冊の発刊となった（34巻補冊、2003年7月）。
- 牛場大蔵氏追悼号（2003年12月）
- 特集「卒後臨床研修必修化後の専門医制度を考える」（35巻3号、2004年6月）
- 特集「臨床研修後の進路：研修必修化2年を経て」（36巻5号、2005年10月）
- 新投稿規程の発表（36巻5号、2005年10月）
- 特集「各国の医学教育」（36巻6号、2005年12月）

第14期での編集後記

- 35巻1号（2004年2月：庄司進一編集委員長）：本号に掲載した論文「『心周期：初めの一歩』において学習者と評価者とを盲検化したrandomized controlled trial」はランダム化比較デザインを用いた教材評価の研究で、医学教育研究の原著論文の基準を十分に満たしていると考えています。

- 35巻4号（2004年8月：庄司進一編集委員長）：教育学の研究では、比較の測定方法、変動要因の分析、などを厳密に行い、統計学的分析と論理的考察からいいすぎでない結論を引き出す研究が期待されます。本誌はこれらの視点から原著と報告を分けて考えています。
- 35巻5号（2004年10月：庄司進一編集委員長）：本誌への投稿論文が増え、学位論文として投稿される方もおられます。投稿論文の査読の迅速化に努力しております。できるだけ医学教育学の高いレベルの論文を掲載したいと考え、どの投稿論文も何度も修正し、できるだけ載せると今までの方針から少しずつ転換を図っております。

- 35巻6号（2004年12月：庄司進一編集委員長）：本号の文献紹介は、「『医学教育の研究』についての論文はどこを探せばよいか？」の題で、本誌の「これまでの原著のカテゴリーにされた論文のうち、調査や試行を含めても原著とされる論文以外の記事の方が多く、さらにそのなかで『研究』論文と言えるものは全体の3%にも満たないのではないかと見なされる」と書かれています。医学教育学の国際誌の中でトップランクはAcademic Medicine で「医学教育の研究」論文は11.23%とのデータも引用されています。・・近々本誌の投稿規程を改訂し、投稿者や読者に原著論文の定義などが明確になるようにしたいと考えております。そしてわが国の文化に根ざした、わが国の医学教育の研究者が主体的に行った医学教育の研究が数多く発信されるようになることを願っています。

編集委員会の悩み

- 原著論文とは何か？原著と報告をどのように区分するのか？
- 特集を通じ、広く読者に伝えるべきことは何か？
- どうやったら、「掲載不可」にできるのか？

投稿規程の改訂

- 医学教育研究を進めるために、「医学教育研究」の原著とはなにか、を定義していかなければならない。
- 「原著」にしては根拠が弱かったり、研究のデザインがされてなかったものを、安易に「報告」としてきたことに対する反省があった。
- 機関誌が持つ「誘導作用」についての自覚が必要である。

  → 投稿規程改訂グループ（グループ長：吉岡）

第15期　日本医学教育学会編集委員会

委員長　:吉岡俊正
副委員長:堀内三郎、伴　信太郎
委員　　:相澤好治、福島　統、森田孝夫、
高木 康、椎橋実智男、天野隆弘、
武田裕子
顧問　　:齋藤宣彦、庄司進一

第15期の編集

- 特集「平成17年度『特色ある大学教育支援プログラム』、『現代的教育ニーズ取組支援プログラム』」(37巻1号、2006年2月)
- 特集「卒前医学教育専従部署の紹介」(37巻1号、2006年2月～37巻3号、2006年6月)
- 特集「卒前医学教育責任委員会の紹介」(37巻5号、2006年10月～)

第15期の編集後記

- 37巻1号（2006年2月：吉岡俊正編集委員長）：『医学教育』は日本医学教育学会の機関誌であり、また高等教育に関する日本の数少ない専門誌でもあります。本誌は医学教育学会の発展とともに読者が増え掲載される論文も高質になってきました。・・・・投稿論文が増え、査読システムが充実し、さらに新たな投稿規定が制定されました。・・・・今期の委員会は、質の向上とともに範囲の拡大にも努力したいと思います。すなわち、新投稿規程にも書かれているように、本誌は医学を中心として医療系教育全般を対象とする教育研究の公開の場でありたいと思います。また、卒前教育だけでなく、卒後研修、大学院教育、生涯学習などを中心とした情報公開の場・・

旧投稿規程

- 目的：広く医学教育に関連する研究成果の発表ならびに当学会の活動を含め情報交換をおもな目的とし、

原著：目的、対象、方法、結果および考察の明快なもので、独創的な学術論文（6,000字）
総説：解説、紹介、翻訳など（6,000字）
論壇：意見、主張、提案など（4,000字）
報告：学会、研究会、委員会、視察などの報告（6,000字）
資料論文：資料として意義のあるもの（6,000字）
学生のページ：学生の投稿欄（4,000字）
アナウンスメント、ニューズ：学会、機関委員会などの活動の予告、速報（600字）
文献紹介、書評：（600字）
てがみ：（600字）

新投稿規程（2006年1月1日施行）

- 「医学教育の目的」： 本誌は医学教育だけでなく、歯学教育、看護学教育、薬学教育など広く医療人の育成に関する研究ならびに党学会の活動を含めた情報交換に資することを目的とする。
- 「論文」の査読： 2001年から2005年受付の投稿論文採択率は83.2%である。
- 「てがみ」、「アナウンスメント」、「ニューズ」、「文献紹介」の区分を「論文」とは分けた。

論文の区分：原著-総合的研究

- 総合的研究は、根拠に基づく新たな知見を提供する論文である。教育研究では、定量的研究だけでなく定性的研究も重要であると本誌は考える。定量的研究には測定方法と分析方法とが明確な、横断的および縦断的研究が含まれ、定性的研究は新たな仮説・治験を示唆する根拠となる非定量的なエビデンスの集積が含まれる。単一の非定量的観察結果、教育方略の実施結果などは、エビデンスの集積ではないのでこの区分から除かれる。

原著-探索的研究

- 観察に基づく記述的研究論文である。単一の独創的教育法の実践、従来の知見の実証、国外における教育方法の導入事例などが相当する。

→ 原著を総合的研究と探索的研究に分ける。
①研究目的、研究方法、結果の吟味、新知見
②作業仮説、設計された観察、観察結果の検証、考察

その他の論文

- 総説：著者自身およびその他の複数の論文、エビデンスを根拠にする事象の解説、紹介、新たな概念の提示の論文である。
- 主張：限られた知見、少数のエビデンスに基づく、提案、議論、意見、主張を述べた論文である。
- 報告：教員あるいは学生の経験、体験、国外のレポートなどで、資料として広く活用できる論文である。
- 資料：教育マニュアル、行動目標、ガイドライン、あるいは方法・考察のない統計データなどで、医学教育に活用できる資料となるもの。
- 特集・招待論文
- 英文論文

査読要項

- 対象となる論文:　原著、総説、主張、報告、その他
- 査読過程:
  ①編集委員長による検討
  ②担当編集委員による2名査読(学会員:6週以内)
  ③問題のある場合は3人目の査読者を選定する
  ④再査読は1回までで、その後は編集委員会で採否を決める
  ⑤査読者2名が不採用としたものは編集委員会に報告する
  ⑥編集委員会からの調整・修正依頼も1回のみ
  ⑦不採用の場合は疑義照会できる
  ⑧5ヶ月以内に採否を決定

第13期から第15期の編集委員会

医学教育研究→医療者教育研究、高等教育研究

- 研究目的
- 研究のデザイン
- データ収集方法の再現性と妥当性
- データ解析の方法論(方法論的限界、妥当性)
- 解析結果からの結論